

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 17 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22330233

研究課題名（和文）大学における内部質保証システムの再構築と効果的運用に関する国際比較研究

研究課題名（英文）Comparative Studies on the re-establishment of internal quality assurance system and its effective operation in university

研究代表者

杉本 和弘（SUGIMOTO KAZUHIRO）

東北大学・高等教育開発推進センター・准教授

研究者番号：30397921

研究成果の概要（和文）：

本研究は、各国の大学質保証における機関レベルの内部質保証システムの構造と機能を国際比較の観点から考察し、我が国の大学が内部質保証システムをいかに再構築し効果的運用すべきかを明らかにするため、①先行研究の整理・分析、②国内外の大学・質保証機関への訪問調査、③教育マネジメントに関する国際セミナーの開催を行った。その結果、大学の内部質保証システムを構築し機能させるために、全学レベルで学位プログラムを中心としたデータに基づく教育開発・教育改善が一体的に機能した質保証システムの整備を進め、さらに学内外にそのプロセスが明示されるようにすることの重要性が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：

The research project aimed to investigate the current policies and practice regarding internal quality assurance within universities and clarify how Japanese universities re-establish and effectively operate their own internal quality assurance systems. To achieve this objective, we examined the previous related studies, interviewed people at universities and quality assurance agencies in the US, the UK, Australia, some EU countries and Japan, and held the international seminar on educational management and discussed the internal quality assurance system in some advanced countries. This research project reveals the importance to develop an internal quality assurance system centered around a degree program on the institutional level, in which educational development and enhancement functions based on the data collection and analysis are put in place.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2011年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2012年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総計	10,500,000	3,150,000	13,650,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：比較教育、大学質保証

1. 研究開始当初の背景

我が国の大学質保証は 1990 年代以降、自己点検・評価の努力義務から実施義務へ、さらに認証評価制度の確立と受審義務化へと展開し、国立大学法人評価も含め第三者評価システムが制度化され機能するようになる一方、特に 2000 年代以降は、各大学において教育の質保証及び改善につながり得る内部質保証システムを再構築し、いかに実質的に運用していくかが喫緊の課題として認識されるようになった。

いかなる国・地域の大学質保証システムも外部質保証のみで機能し得るわけではなく、そもそも外部質保証自体の成否が、出発点となる機関レベルの自己評価がいかに効果的に機能しているかに大きく依存している。外部質保証の制度化・高度化だけでは質をめぐる本質的課題は解決されないことは明らかであり、各大学における内部質保証システムの再構築こそが大学関係者を含む学内外の共通の認識となりつつある。

2. 研究の目的

そうした問題状況を踏まえ、本研究は、各国（米・英・豪・欧州・中・日）の大学質保証システムにおける内部質保証の構造と機能を国際比較の観点から考察し、我が国の大学における内部質保証システム再構築に資するモデルを提示することを目的として開始された。具体的には、関連する先行研究から得られた知見を踏まえつつ、機関レベルの内部質保証の多元的構造と機能を、政府規制や外部質保証によって形成される各国固有の文脈の中に位置づけながら総合的に明らかにすること、そこから我が国の内部質保証モデルを導くことを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、上記の目的を達成するため、以下の 3 つの課題に国際比較の観点からアプローチすることとした。

(1) 各国大学質保証システムのマクロ分析

これは、各国の大学質保証システムにおける「政府」、「外部質保証（第三者評価機関）」、「内部質保証（大学）」、「国際機関」の関係性を、機能・権限分担の視点から構造的に整理・分析し、特に各国における第三者機関による外部質保証と機関レベルの内部質保証の関係構造を明らかにする作業であった。

(2) 内部質保証システムの構成要素分析

ここでは、各国における大学レベルの内部質保証システムに関するケーススタディを行い、内部質保証システムを構成する諸要素、大学マネジメントの形態、企画・評価・機関

調査（IR）組織の構成・位置・機能、部局の構成・機能の機能的連関を明らかにする作業を行った。

(3) 内部質保証システムのモデル構築

以上の整理・分析から、有効な内部質保証システムを成立させるための要件を整理し、それらの関係性・相互作用性を明らかにすることを通して、我が国における内部質保証の再構築に向けた示唆を得るとともに、望ましいモデルの提示を行うことを目指した。

4. 研究成果

本研究では、大学の内部質保証や教育マネジメントに関わる先行研究及び関連理論の整理・考察を行うとともに、国内外で先進的に内部質保証の構築・運用を行っている大学や関係の団体（質保証機関・大学団体）を訪問調査し、特に機関のケーススタディを通して各機関文脈に即した内部質保証システムの構築・運用のあり方と、そこから共通に導かれる今後の内部質保証システムの方向性について考察した。本研究から明らかとなったことは以下の通りである。

第一に、特にアングロサクソン諸国の大学における内部質保証に関する調査からは、大学内に全学レベルで各「学位プログラム」を認証するシステムが構築されて機能しており、それをデータに基づく教育開発・教育改善に関わるセンターや部署が支援していることが明らかとなった。例えば、豪州の事例からは全学レベルで「アカデミック・ボード」が学位プログラムの認証やレビューにおいて中心的な役割を担う一方、IR 機能を通して常にプログラムのモニタリングがなされている。近年の中教審答申でも「学位プログラム」を中心とした教学マネジメントの必要性が主張されているが、それを実質的に機能させるためにもデータの提供や教育開発の面で支援を行う組織が一体的に機能することが必要だということができる。また、そうした学内のシステムが学外に見えやすくなっていることも質保証の信頼性を確保するという点から重要である。

第二に、国内大学における内部質保証に関する調査からは、すでにいくつかの先駆的な取組みが看取され、そこでは基本的に学外環境を含めた各機関の文脈に依存して多様な取組みが試行されたり展開されたりしていた。例えば、国公私立 4 大学 IR ネットワークに基づく取組を進める大阪府立大学、次期認証評価受審に向けて内部質保証体制の整備・強化を図る立命館大学、国立大学法人評価を背景に独自に「部局評価」を実施して評価・改善活動を進める東北大学、SWOT 分析を実施して第二期中期目標・中期計画の立案を

行っている岩手大学などの事例がある。先述のアングロサクソン諸国の大学のように、学位プログラムを中心とする内部質保証システム構築を目指す事例もあり、「到達目標型教育プログラム」を構築して全学レベルで統一的に教育質保証を進める広島大学や、「筑波スタンダード」を策定して学位プログラム単位での教育内容・方法の改善を進める筑波大学は、我が国における先進事例である。これら二つの事例のように、従来部局レベルにとどまる傾向が強かった教育の内部質保証が学位プログラム単位で全学的に進められる方向で試みられていることは重要な試みとして、我が国の（特に大規模）大学における教育質保証の今後の一つの方向性を示唆するものだといえる。

第三に、大学内部質保証に関しては、欧州高等教育質保証協会（ENQA）が2005年に策定した「欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（ESG）」に規定された内部質保証基準や欧州大学協会（EUA）による質文化プロジェクト（2006）が示唆するように、一定の共通した構成要素（戦略的計画、質保証のための適切な組織構造、執行部によるリーダーシップの行使、教職員の関与・資質開発、学生の関与、外部ステークホルダーの参加、組織的なデータ収集・分析等）が整備される必要がある一方、同時に、各機関の置かれた文脈（歴史・環境・規模等）によって内部質保証システムの現れ方は一様でないという点も重要である。例えば、英国キングストン大学の事例は、大学教育に対する学術的・実践的関心を有する学内アクターの関係性（パートナーシップ）やコミュニケーションを担保し機能させることで、学内の学術知と実践知を確保して教育マネジメントを展開しており、これは「学位プログラム」を中心とする内部質保証システムに加え、それとは異なるアプローチが質の保証・向上に寄与し得る可能性を示唆している。このことから、急速に変化する社会的ニーズを背景として成立・運用される大学の内部質保証システムは、多様な現れ方をすることを前提にしつつ、できる限り多くのケーススタディを蓄積して知見を獲得していくことが今後の課題であると指摘できる。

最後に、本研究課題に基づく研究活動のインパクトとして、我が国の大学における内部質保証の再構築・強化に向けて整備されてきた第二期認証評価への貢献を指摘しておきたい。特に大学評価・学位授与機構において、研究分担者の林隆之が中心となって、本研究による研究成果を一部利用しつつ「教育の内部質保証システム構築に関するガイドライン」が作成されており、今後我が国の大学教育における内部質保証の強化・充実を推進していく基盤の形成に貢献することができて

いる。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

- ① 杉本和弘・鳥居朋子「専門性パートナーシップによる大学教育マネジメント—英国キングストン大学の取組事例を中心に—」、『東北大学高等教育開発推進センター紀要』No. 8、2013年、頁未定、査読有。
- ② 鳥居朋子・八重樫文・川那部隆司「立命館大学の教学マネジメントにおけるIRの開発と可視化のプロセスに関する考察—デザイン研究の知見を分析視角として—」、『立命館高等教育研究』第13号、2013年、75-89頁、査読有。
http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/ac/itl/outline/kiyo/kiyo13/06_torii.pdf
- ③ 福留東士「アメリカの大学評議会と共同統治—カリフォルニア大学の事例—」、『大学論集』第44集、広島大学高等教育研究開発センター、2013年、49-64頁、査読有。
rihe.hiroshima-u.ac.jp/tmp_djvu.php?id=109605
- ④ 福留東士「米国における大学経営人材—理事と学長に着目して—」、山本眞一編『教職協働時代の大学経営人材養成方策に関する研究』高等教育叢書123号、広島大学高等教育研究開発センター、2013年、41-53頁、査読無。
rihe.hiroshima-u.ac.jp/tmp_djvu.php?id=109624
- ⑤ 福留東士「アメリカの大学における内部質保証—カリフォルニア大学のプログラムレビューを通して—」、『KSU 高等教育研究』第2号、くらしき作陽大学高等教育研究センター、2013年、33-45頁、査読有。
- ⑥ Torii, T. and Kawanabe, T. Students' Learning Experiences and their Outcomes: A Preliminary Study of its Relationship in Japan, 2012 IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics, 2012, pp. 314-319, 査読有。
- ⑦ 福留東士「米国大学のガバナンス構造とその歴史的経緯」、IDE 大学協会編『現代の高等教育』No. 545、2012年、55-61頁、査読無。
- ⑧ 鳥居朋子「立命館大学における教学領域のIR」、IDE 大学協会編『現代の高等教育』No. 528、2011年、43-47頁、査読無。
- ⑨ 宮浦崇・山田勉・鳥居朋子・青山佳世「大学における内部質保証の実現に向けた取り組み—自己点検・評価活動および教学改

善活動の現状と課題―』、『立命館高等教育研究』第11号、151-166頁、2011年、査読有。

http://www.ritsumeit.ac.jp/acd/ac/it1/outline/kiyo/kiyo11/11_miyaura.pdf

- ⑩ 林隆之・山下康弘「ビブリオメトリクスを用いた大学の研究活動の自己分析」、『情報管理』53(3)、2011年、665-679頁、査読無。
- ⑪ 鳥居朋子・山田剛史「内部質保証システム構築に向けた教学IRとFDの連動」、『大学教育学会誌』第32巻第2号、2010年、39-42ページ、査読無。

〔学会発表〕(計29件)

- ① Sugimoto, K. *Enhancing Internal Quality Assurance at Japanese Universities*, International Symposium on Shifting Patterns of University Governance Reform in East Asia, National Academy for Educational Research, 9 November, 2012, Taiwan.
- ② 杉本和弘・鳥居朋子「専門性パートナーシップによる大学教育マネジメントー英国キングストン大学の取組事例を中心にー」、日本教育学会第71回大会、2012年8月26日、名古屋大学。
- ③ 杉本和弘「豪州大学の教育質保証における『アカデミック・ボード』の位置と機能」、日本比較教育学会第48回大会、2012年6月16日、九州大学。
- ④ 田中正弘・安原義仁「イギリス高等教育における学外試験委員制度の再構築ー最近の動向と基本原理ー」、日本比較教育学会第48回大会、2012年6月16日、九州大学。
- ⑤ 高森智嗣「国立大学法人における評価体制に関する研究ー業績実績報告書の記述内容分析ー」、日本高等教育学会第15回大会、2012年6月2日、東京大学。
- ⑥ 川那部隆司・鳥居朋子「教学IRにおける量的データと質的データの活用ー学業成績の変化過程への二側面からのアプローチー」、大学教育学会第34回大会、2012年5月26日、北海道大学。
- ⑦ Sugimoto, K., *A Comparison of Quality Assurance Policies between Japanese and Australian Higher Education*, CSHE Seminar, University of Melbourne, 8 March, 2012, Australia.
- ⑧ 鳥居朋子「エビデンスに基づく教育改善の可能性ー「資産」としてのデータと教学IR」、法政大学第9回FDシンポジウム、2011年10月8日、法政大学。
- ⑨ 杉本和弘・大佐古紀雄・田中正弘・福留東土・高森智嗣・鳥居朋子・林隆之「高等教育における機関レベルの教育質保証シス

テムー米・英・豪・欧州の動向からー」日本高等教育学会第14回大会、2011年5月29日、名城大学。

- ⑩ 林隆之「日本高等教育評価の検証」、日本評価学会第11回全国大会、2010年11月28日、関西学院大学。
- ⑪ 田中正弘「イギリス高等教育の質保証制度ー外部試験委員の役割に着目してー」、日本学術会議史学委員会、2010年11月22日、東京大学。
- ⑫ 鳥居朋子「内部質保証システムの視点からー構成要件および運用をめぐる議論ー」、日本教育制度学会第18回大会、2010年11月14日、山梨県立大学。
- ⑬ 大佐古紀雄「欧州高等教育質保証機関登録機構(EQAR)の現状と課題」、日本高等教育学会第13回大会、2010年5月30日、関西国際大学。
- ⑭ 鳥居朋子・杉本和弘「米・豪における大学の学習成果測定に関する考察ー意思決定支援機能としてのIRに注目してー」、日本高等教育学会第13回大会、2010年5月29日、関西国際大学。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

杉本 和弘 (SUGIMOTO KAZUHIRO)
東北大学・高等教育開発推進センター・准教授
研究者番号：30397921

(2) 研究分担者

大佐古 紀雄 (OSAKO NORIO)
育英短期大学・保育学科・准教授
研究者番号：10350373

田中 正弘 (TANAKA MASAHIRO)
弘前大学・21世紀教育センター・准教授
研究者番号：30423362

鳥居 朋子 (TORII TOMOKO)
立命館大学・教育開発推進機構・教授
研究者番号：10345861

林 隆之 (HAYASHI TAKAYUKI)

大学評価・学位授与機構・研究開発部・准教授

研究者番号：30342629

福留 東土 (FUKUDOME HIDETO)

広島大学・高等教育研究開発センター・准教授

研究者番号：70401643

(3) 連携研究者

高森 智嗣 (TAKAMORI TOMOTSUGU)

福島大学・地域連携課・研究員

研究者番号：80583103

川那部 隆司 (KAWANABE TAKASHI)

立命館大学・教育開発推進機構・講師

研究者番号：40617081

(4) 研究協力者

高 益民 (GAO YIMIN)

北京師範大学・比較教育研究中心・副教授